

上野理直とけ点理

たしく春、初夏となるとそれには社老し存  
ければ存する

室温や本園などを見たりしては、先白さく

らに見たり折、のび散らぬのつはき、かえり

と見て、これよりおしるやれはと見うた

土地が元々おぼ、どれにやのびてもよい

せすの所では、おと存りの二とも考え存い

とすのわくをわかす

終にうけき、付、こんもりとしがうてい

去年虫おついで園うた

いれへ一本、~~隣~~虫刺をすいぬりしてはた

その家を通、~~隣~~虫おつくが

日々には、虫とてい

以前は、自分でしてはた、今やとて、無心理

植木やに、左のまじか、おぼい

植木やを、知つて、いそがる人かうた

早くし、存いと、又虫おつく

季節印の、変化付い、そかし、い

寒い時、は、早く、おぼ、た、か、た、存、う、て、存、しい

と思つて居りし在り

少し取つて居ると深しうなつて居しいと居る

回~~書~~が居るの付す居うしいがそれとついで

いかれ居いのは何

自分で管理出来ることか多い

フロリーと分けて居るは出来る現在

いつからこう居るのか京へのほど

並かう居

身解おさつて行くことかそれと居る

出平居る居るとは残念

死ぬべきか<sup>?</sup>と云へしといふと思つて

いふ~~取~~ 無理居るか否か

2022  
4/13